



# おにぎり通信

2022年8月6日（土曜） 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、四ツ谷・市ヶ谷周辺、有楽町、銀座、日比谷公園、茅場町、日本橋、お茶の水、秋葉原、東京駅周辺などで生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

早い梅雨明けから猛暑となり、食品の物価高、燃料高による光熱費の高騰が家計を圧迫しています。生活保護を受けている人にはなおさら深刻な問題です。そこで、保護世帯からは「冬季加算があるのだから、夏季加算もつくってほしい」との声が上がっています。冬季加算で暖房費を補助する制度があるのなら、異常な高温が多くなった夏季に冷房費を補助する夏季加算があるべきだという要望です。室内で発症するほうが多いと言われる熱中症を予防する観点からも冷房は死活問題です。もちろん路上の方がたも、十分に注意してください。



福祉行動は引き続きお休みします。ただし、病院や生活相談などで福祉事務所へ行くことを希望される方は、おにぎりをお渡しにうかがった際に、お声がけください。お声がけいただいた場合のみ、翌週以降に福祉事務所まで同行します。

中央区福祉事務所・中央区築地 1-1-1 中央区役所 4階

千代田区福祉事務所・千代田区九段南 1-2-1 千代田区役所 3階

ねんまえ ねん がつ か ひろしまし げんしばくだん とうか  
77年前の1945年8月6日は広島市に原子爆弾が投下され  
た日です。

げんばくしじん い とうげさんきち げんばくししゅう ぼうとう  
原爆詩人と言われた峠三吉の『原爆詩集』の冒頭には、「ちち  
をかえせ／ははをかえせ／としよりをかえせ／こどもをかえせ／  
わたしをかえせ／わたしにつながる／にんげんをかえせ／にん  
げんの／にんげんのよのあるかぎり／くずれぬへいわを／へい  
わをかえせ」と序があり、この序につづいて、「八月六日／あの  
せんこう わす しゅんじ がいとう まん き  
閃光が忘れえようか／瞬時に街頭の三万は消え／おしつぶされ  
くらやみ そこ まん ひめい た ひつう さけ れんめん  
た暗闇の底で／五万の悲鳴は絶え……」と悲痛な叫びが連綿と  
つづきます。

さくしゃ とうげさんきち さい ばくしんち はな  
作者の峠三吉は28歳のとき、爆心地から3キロ離れた  
じたく ひばく せんご せいねんうんどう ぶんかうんどう つう へい  
自宅で被爆しました。戦後、青年運動や文化運動を通じて平  
わ うんどう せんとう げんばくはんたい へいわようご さくひん  
和運動の先頭に立つようになり、原爆反対、平和擁護の作品  
かずおお はっぴょう しょうわ ねん が か  
を数多く発表しましたが、1953（昭和28）年3月10日、  
こくりつひろしまりょうようしょ しゅじゅつちゅう しきよ きょうねん さい  
国立広島療養所で手術中に死去。享年36歳でした。

し か ひさん できごと げんばく つか  
この詩に書かれている悲惨は出来事は、原爆こそ使われてい  
ませんが、今このときにも、世界各地で起きています。

よ や なかま れんらくさき  
四ツ谷おにぎり仲間 連絡先 080-7967-8672  
れんらくかのうじかん まいしゅうどようび ごごじ ごごじ  
連絡可能時間 毎週土曜日 午後3時～午後6時  
ちよだくこうじまち せい きょうかい  
千代田区翹町6-5-1 聖イグナチオ教会

おにぎりを包んでいるラップや読み終わった通信は放置せずに、ゴミ  
箱に入れるなどして片付けにご協力をお願いいたします。おにぎりは  
かならずその日のうちにお召し上がり下さい。一人でも多くの方に召  
し上がっていただくため、おにぎりは一人一個でお願いいたします。

